保育園・認定こども園をたずねて 517

大切な時期に愛に溢れた体験を

地域の自然と見守る人々とのふれあい

豊中市　保育所　刀根山（とねやま）こころ保育園

阪急沿線蛍池駅から徒歩8分の小高い丘陵に位置する刀根山こころ保育園。

毎日、緑の多い四季折々の自然の中でのマラソンから一日が始まります。6カ月から5歳まで定員70人。「愛され、人としてその子らしく輝いて生きる」の理念の中で進められる保育には、愛が溢れています。

何より身体づくりを大切に考えておられる保育には、食育も含めたさまざまな五感で感じる活動が組み込まれています。畑で野菜を育てたり、果樹の恵みに感謝する。薪割りや昔ながらの生活にも取り組みながら、自尊心を高め、生きる力を培っています。

小高い丘陵に建つ園舎

毎月の遠足では、年齢にあわせて公園へ出かけていきます。年長になれば、往復13㎞の道のりを楽しむ時間や学びの時間とし、いとも簡単に歩くそうです。

こうした取り組みは十数年前からのもので、「諦めないこころ」の育成にもつながっているようです。

「地域に根付き、地域とともに寄り添いながら交流し、誰もが声かけ、見守る人々の中で育つ子どもたちは今や一番欠けているものを埋め尽くしてくれると信じています」と園長の浦野千恵子先生は語りました。

大切なことは、子どもが子どもらしく生きるために、泣いて笑って心いっぱい皆とふれあう絆。新制度への対応、少子化の懸念など問題は山積していますが、子どもを見つめ、一生懸命寄り添っていくことが大切と述べておられました。

（編集委員Y・T）

マラソン後には整理体操

保育園・認定こども園をたずねて 517

熱い思いをていねいに伝える

これまでの蓄積をふまえた新たな取り組み

寝屋川市　保育所　もくれん保育園

もくれん保育園は寝屋川市駅から南東へ徒歩7分、定員100人の保育園です。元々市立幼稚園でしたが、昭和58年に保育園へ転換。

そして一昨年、社会福祉法人大阪誠昭会が運営を引き継ぎ民営化されました。同法人は、同じ市内にある寝屋保育園も運営しています。訪問したのは、大規模改修がおおよそ終了した直後で、新竹市児童福祉協会（台湾）の視察団の訪問翌日という4月中旬の慌ただしい時でした。

お隣には成美小学校と地域交流施設「エスポアール」があります。この立地条件は、子育て支援や地域交流などを積極的に進めるうえで大変役立っています。

大規模改修できれいになった園舎

また、小学校との密接な連携も進めることができます。5歳児が招待されて訪問したり、園児のお散歩で遊びに行ったりしているそうです。教室の探検や支援学級どの交流なども行っています。

園は、従来の「保育のあり方」を尊重しつつ、法人の理念や信念を取り入れています。民営化と同時に行った完全給食の導入に際しては、保護者へ丁寧に説明を行いました。主食のお米は、姉妹園の裏で園児たちが田植えから収穫まで体験している地元の農家から直接購入していくことなどまで詳しく説明しました。

このような細やかな対応のおかげで、保護者の間で受け入れ賛成の声があがり、完全給食となりました。

「熱く、思いを語り伝える」ことが大切なことだと園長の田中啓昭先生はおっしゃっていました。

（編集委員J・F）

絵本作家accototoさんの直筆壁画。園児たちの希望で虫を描き足したそうです